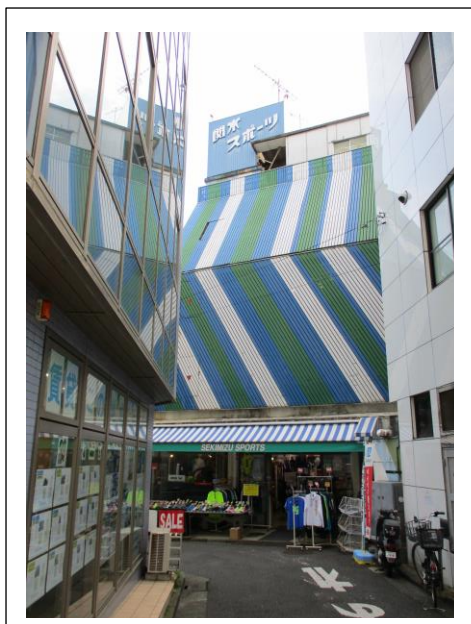


YR ステーション 関水スポーツ

八柳 修之



我が家から藤沢駅までの距離は約 1km。1 km以内にイヤーラウンドウォーク(以下、YR)のステーションをお願いしている関水スポーツ(鵜沼石上1-3-1)がある。湘南ふじさわウォーキング協会(FWA)がイヤーラウンドウォークを企画したのは平成15年(2003)、当時、事務局長であった長津豊さんである。

長津さんは広くウォーキングの普及・拡大のためには、単にウォークの例会に参加するのみならず、一人で年中歩けるコース、歩いた距離がIVVの認定が受けられる日本ウォーキング協会(JWA)のYR制度に着目した。

長津さんが中心となりワーキンググループが結成され江ノ島コース12km、大庭城址コース20kmの2コースが設計された。コースの設計はお手の物であったが、YRウォークの受付、ウォーク後の確認とIVV発行業務を代行して貰えるお店を探すこと

であった。

この企画を理解し快く受け入れ支援してくれたのは、関水スポーツの専務関水俊明さんである。関水スポーツは古くからセキスポと親しまれ藤沢駅南口でスポーツ用品を広く取り扱っていたお店であったからYRウォークに対する理解も得られ、駅から近くステーションとして恰好、しかも安い業務委託料で引き受けていただいた。

かくして平成15年(2003)、4月、江ノ島、大庭城址の2コースがスタートした。神奈川県下では横浜ウォーキング協会(YWA)に次ぐものであった。そして、2004年12月には県央ウォーキング協会の小川孝辰さんがYRウォーク3冠(ブロンズ・シルバー・ゴールドカード、通算540回)、第1号を達成した。その後、湘南海岸、鎌倉山、藤沢宿の3コースが追加された。開設以来、2020年12月末まで、FWA会員のYRブロンズカート取得者(60回)は155名、YR参加者数は約68千名に達している。



関水スポーツについて述べれば、昭和29年(1954)2月、関水正文氏によって設立された合資会社である。現在、2代目社長正章氏、専務俊明氏、従業員は12名である。初代社長の正文氏は藤沢市の陸上競技会の大立者で、昭和21年3月創設の藤沢市体育協会の設立にかかわり、また1964年東京オリンピック陸上競技審判員として競技審判をつとめた。同じころ江尻忠正相談役(元FWA・KWA会長)も日本代表として50km競歩に出場、日本人選手最高の22位を記録している。正文社長は昭和60年(1985)には第1回藤沢スポーツ功労者として表彰を受けるなど、永らく藤沢市の陸上競技会に尽力された。

現社長の正章氏も1964年東京オリンピック当時、大学2年生で藤沢地区の聖火ランナーとして相模工大(現湘南工科大)をスタートする第4区間、江ノ島大橋を走って最終区間に聖火を繋げる1.2kmを走った経験がある。当時を振り返り「政治で対立する国同志でも選手と一緒に競技に打ち込むことで名場面があり、スポーツの尊さを再確認させてくれる最たるものが五輪。最高の感動を多くの人に感じてもらいたい」とタ

ウンニュース紙（2019・8・16）で語っている。



専務の俊明氏の専門は陸上競技、他にスキー、登山、カヌー、キャンプ等多種のスポーツにかかわり、現在はノルディックウォーキングのインストラクターとしても活躍している。また、11年も続く湘南藤沢市民マラソンの発起人として運営に力を注いでいるほか、FWAの顧問をお願いしている。

俊明専務の長男文俊氏は、スキーの選手として神奈川県代表としてインターハイ、国体等で活躍し、神奈川県、藤沢市のスキー選手の育成にも力を注いでいる。関水スポーツはスポーツにかかわるすべての人を一家総出で応援している。

YR ウォーカーの多くはYR受付のある1階にしか足を運んでいないでしょうが、2階は卓球、水泳、武道。3階はハンドボール、ラグビー、バレー、アウトドア用品などの売り場となっており、各売り場にはそれぞれ競技経験と専門知識を有する従業員を配置している。そのようなこともあって、関水スポーツは藤沢スキー協会、藤沢陸上競技協会の事務所、それにFWAのYRステーションとなっている。

コロナ禍、各種競技も活動を自粛しており、その影響を受け、売り上げも大幅に減少しているとのことである。YRに参加していない人でも健康のため日常的に歩くことが求められています。ウォーキングシューズの購入とか、WEB SHOPを利用するなどして、関水スポーツを支援してください。ウォーキング協会員には割引もあるそうです。 完